

著名工事 視察の手引

本欄は次の順序に配列記載します
①工事ヶ所名稱 ②工事特長 ③工事設備
④工事現状 ⑤工事設計及主任 ⑥工事施工者
⑦竣工豫定 ⑧道順 ⑨附近名勝地

京津國道改良工事

- ①京津國道改良工事(國道第二號線)路床工事、側溝工、溝橋工、擁壁工、路面工。
- ②小鋪石及膠石鋪裝。
- ③6.3噸瓦斯倫機關車、10噸輾壓機使用。
- ④竣工に近し。
- ⑤内務省土木出張所、内務技師小野龍一氏。
- ⑥内務省京津國道改良事務所直營。
- ⑦昭和七年三月末日。
- ⑧京都驛下車又は天津驛下車。
- ⑨附近名所舊跡に富む。

明石市氷丘村間國道改良工事

- ①國道第二號線、明石市より加古郡氷丘村間(失救工事)
- ②延長16,600米、有効幅員9米、砂利道、中央六米混凝土及び膠石鋪裝。
- ③明石市桐生町二丁目兵庫國道改良事務所を設け全工區を大久保工場、魚住工場、平岡工場の三工區に分つ。
- ④昭和六年五月十六日工事着手以來就業者累計參拾參萬人、工事工程九割八分。

- ⑤監督主任者兵庫縣道路技師囑託山本廣一氏、工事設計者囑託德重正雄氏。
- ⑥大久保工場主任、内務技手野田耕助氏、魚住工場主任内務技手豊田松三郎氏、平岡工場主任、内務技手柴田正雄氏。
- ⑦昭和七年三月末日。
- ⑧山陽本線下りの場合は明石驛下車、事務所より大久保、魚住、平岡各場を経て加古川驛に至る。山陽本線上りの場合は上記反對順路によるを好しとす。
- ⑨明石城趾、人丸神社、明石濱、淡路島、尾上松、高砂相生松、曾根松、石の蟹肢、手枕の松。

和歌山國道改良工事

- ①國道第十五號線、那賀郡岩出町西北端田中村上野間。
- ②延長2,427米、幅員7.5米砂利道。
- ③和歌山市嘉家作町紀の川改修事務所内に和歌山國道改良事務所を設け十五號線には岩出町に岩出工場を設け十六號線には貴志村に貴志工場を設く。
- ④竣工に近し。
 1. 國道十六號線は海草郡重崎村貴志村
 2. 國道十六號線は5,236米平地部幅員7.5米、山地部幅員6.0米、砂利道。

十二工學會聯合 日本工學會大會の記

陽春四月五日、東京帝國大學構内の大講堂に於て、日本工學會大會開催せらる、先に我國十二の工學團體により準備は進められ、夫々の所屬會員にして遠く滿洲、臺灣、北海道等より參集せるものあり、内地各地より馳せ參ずるものを加へ、寔に日本工學技術界の一大觀と云ふべきである。

四月五日午前九時振鈴と共に千餘の會員着席するやドアを排して來賓席に入り來るは宮

内大臣一木喜徳郎、前海軍大臣財部彪、陸軍大臣荒木貞夫、其他鳩山文相代理、前田商相代理其他着席す、役員開會を宣し。

會長古市博士、老軀を提けて壇上に立つや、拍手萬雷の如く、會員一同此の老男爵の勞を謝するが如く、場内は暫時敬虔の態度となる。會長の聲は低聲ではあるが、マイクを通じて場の隅々に行き渡る、會長曰く大體に於て第一回の大會出席者は四千六百餘人であつたが今回は四千二百餘人である、然し論文數は第一回には百六十五であつたものが、今回は三百四十の盛況である、而して其等論文の内容も恐らく多大の進歩であらうと、簡単に報告

著名工事 視察の手引

- ⑤和歌山縣道路技師囑託奥山茂氏。
- ⑥貴志工場主任内務技手荒川敦二氏、岩出工場主任内務技手渡邊重修氏。
- ⑦昭和七年三月。
- ⑧南海電車にて和歌山市驛下車 十六號視察後自動車にて十五號に至る。
- ⑨和歌浦、紀見井寺、粉河等。

岡山國道改良工事

- ①國道第二號線、御津郡今村、吉備郡庭瀨町間。
- ②延長3,871米、幅10米、砂利道。
- ③岡山市内田西春日町に岡山國道改良事務所を設け全工區中白石工場、庭瀨工場の二工區に區分す。
- ④竣工に近し。
- ⑤工事設計者白石工場主任内務技手大内重一氏、工事設計者庭瀨工場主任内務技手山本三郎氏、監督主任者内務技師中尾先信氏
- ⑥現場施工主任者各工區主任
- ⑦昭和七年三月末日。
- ⑧岡山驛下車、自動車にて庭瀨町に至る。
- ⑨後樂園、高松城跡、高松稻荷、官幣中社吉備津神社。

本欄は次の順序に配列記載します

- ①工事ヶ所名稱 ②工事特長 ③工事設備
- ④工事現状 ⑤工事設計及主任 ⑥工事施工者
- ⑦竣工豫定 ⑧道順 ⑨附近名勝地

廣島國道改良工事

- ①國道第二號線、佐伯郡五日市町、同郡地御前村間。
- ②延長3,560米、幅員10米、砂利道。
- ③廣島縣佐伯郡廿日市町に廣島國道改良事務所を設け全工區を地御前工場、五日市工場の二區に區分す
- ④竣工に近し。
- ⑤工事設計者囑託山本弘氏、監督主任者内務技師近藤安吉氏。
- ⑥改良施工主任者、地御前工場内務技手中村義直氏 五日市工場内務技手深木太助氏。
- ⑦昭和七年三月末日。

道路改良講演會

今年の道路改良會講演會は四月十二日から丸龜市を初め四國の各都市で七日間に涉つて開かれた。開催地及講演者は次の通りだつた
丸龜市——水野練太郎博士 長岡隆一郎氏、牧彦七博士 藤井眞透博士、高松市——同上
今治市——水野 牧、藤井三博士、松山市——牧博士 松井二郎吉氏、田中好氏、佐藤利恭氏、宇和島及高知市——同上諸氏。徳島市——内田嘉吉氏外同上諸氏。

して直に退場。次に鳩山文相の祝辭代讀、前田高相の祝辭代讀があつて。

副會長斯波博士議長席に就き、西川博士其他より提出の議案『第三回日本工學會大會開催の件』を會員に諮り、西川博士議案を説明し、次いで牧田博士其他より提出の『工學の獨創獎勵實行助長の件』を會員に諮り、牧田博士登壇説明し、斯波議長は會員の賛成に依り、以上二件を、工學會は今後國內要所に意志表示をする旨を聲明し。

次に斯波議長は次の三件を會員に報告し。

1. 萬國工業技術者聯盟設置の可否を次の萬國工業會議迄に研究するの件、尙其前提と

して國內工業技術者聯盟を設置するの件

2. 灌溉治水に關するオランダ國の申出を支持し研究を助成するの件

3. 大ダム構造に關する國際研究の件

以上の内2と3は我が土木學會が主として關係すべきものである。

大河戸博士のコンクリート論

次に各學會の代表講演に入り、桂辨三博士は日本の鑛業に就て、今泉嘉一郎博士は日本の鐵鋼生産に就て、次に土木學會を代表して大河戸宗治博士は鐵筋コンクリートの將來に就てと題して、

日本に於けるセメントの製造は、年産二千萬樽以